

製品名: カスパーゼ-7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07981**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP7
別名	CASP7; MCH3; Caspase-7; CASP-7; Apoptotic protease Mch-3; CMH-1; ICE-like apoptotic protease 3; ICE-LAP3
遺伝子 ID	840.0
SwissProt ID	P55210
免疫原	抗血清はヒトカスパーゼ7由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 45-94

背景

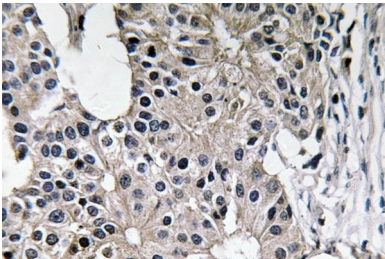
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードします。カスパーゼの連続的

な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体を形成して活性酵素を形成します。コードされているタンパク質の前駆体はカスパーゼ3および10によって切断され、細胞死刺激によって活性化され、アポトーシスを誘導します。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012年5月]、触媒活性: P1 位に Asp 残基が必須であり、優先切断配列は Asp-Glu-Val-Asp-| である。、酵素調節: イサチンスルホンアミドによって阻害される。、機能: アポトーシスを誘導するカスパーゼの活性化カスケードに参与する。ステロール調節エレメント結合タンパク質 (SREBP) を切断・活性化する。ポリ (ADP-リボース) ポリメラーゼ (PARP) を「216-Asp-|Gly-217」結合でタンパク質分解的に切断する。過剰発現はプログラム細胞死を促進する。、PTM: グランザイム B またはカスパーゼ 10 による切断により、2つの活性サブユニットが生成される。プロペプチドドメインはカスパーゼ3によっても効率的に切断される。カスパーゼ7の小サブユニットとカスパーゼ3の大サブユニットの間には、活性ヘテロ二量体 (およびその逆) も存在する。、類似性: ペプチダーゼ C14A ファミリーに属する。、サブユニット: 20 kDa (p20) サブユニットと 11 kDa (p11) サブユニットからなる、2つの逆平行に配列したヘテロ二量体からなるヘテロ四量体。、組織特異性: 肺、骨格筋、肝臓、腎臓、脾臓、心臓で高発現し、精巣では中程度に発現する。脳では発現しない。、

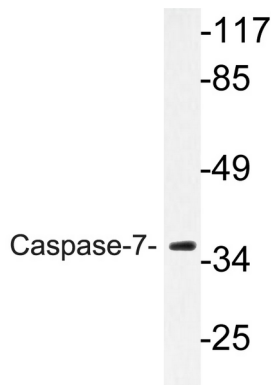
研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;アルツハイマー病;

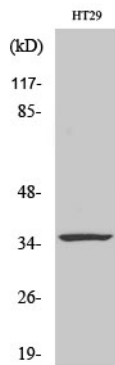
画像データ



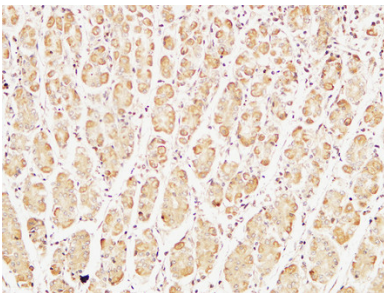
パラフィン包埋ヒト乳癌組織におけるカスパーゼ-7抗体の免疫組織化学分析。



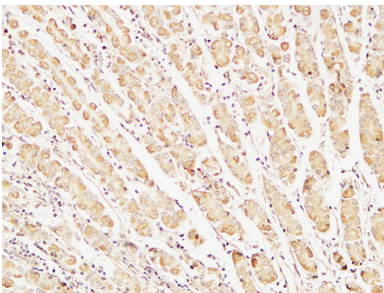
カスパーゼ-7抗体を使用した、HT-29細胞の溶解液のウエスタンブロット分析。



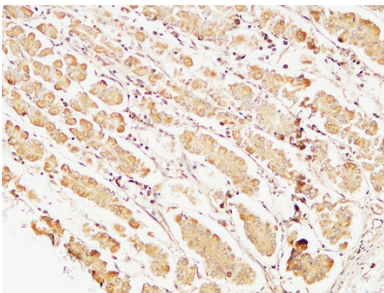
1: 1000 希釈のカスパーゼ7 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晩) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晩) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晩) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。